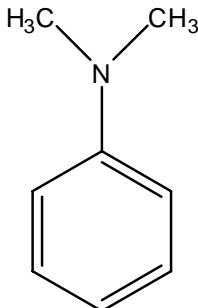


反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG422)データシート

官報公示 整理番号	3-114 3-129	CAS No.	121-69-7
名称 構造式等	<div>名 称：N , N - ジメチルアニリン</div> <div>別 名：N,N-Dimethylaniline</div> <div>(Dimethylamino)benzene</div> <div>N,N-Dimethylbenzenamine</div> <div>N,N-Dimethylphenylamine</div> <div>分子量：121.18</div> <div>分子式：C₈H₁₁N</div> <div>構造式：</div> <div></div>		
外観	油状液体		
溶解度	1450 mg/L (水, 25)		
分解性	難分解性 (通産省公報 昭和 51 年 5 月 28 日)		
蓄積性	低濃縮性 (通産省公報 昭和 51 年 5 月 28 日)		
純度	99% 以上		
用量設定 試験	投与用量	0, 30, 100, 300, 1000 mg/kg/day	
	投与期間	14 日間	
	主な結果	1000：全例死亡 30, 100, 300：脾臓の腫大, チアノーゼ	
反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験 (ReproTox)			
投与	使用動物	CrI:CD (SD)ラット, 投与開始時 9 週齢	
	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリブ油	
	投与用量	0, 1, 10, 100 mg/kg/day, 回復群 0, 100 mg/kg/day (R100)	
	投与期間	42 日間, 42-46 日間 (哺育 4 日まで)	
反復投与 毒性 主な結果	一般状態	：皮膚の暗赤色化(全例)(100, R100)	
	行動機能 観察	：皮膚の暗赤色化(全例)(100)	
	体重	：体重 (100, R100)	
	摂餌量	影響なし	
	尿	影響なし	
	血液学	：RBC (100), Hgb (100), Hct (100), MCHC (100, R100), MCV (100, R100), MCH (100, R100), WBC (100) ：RBC (100, R100), Hgb (100), Hgb (R100), Hct (100), Hct (R100), MCV (100, R100), MCH (100, R100)	
	生化学	：TP (100), 1-glb (100), T-Bil (100) ：1-glb (10, 100), T-Bil (100), T-Bil↓(R100), BUN (100), Cr (R100)	
	臓器重量	：肝臓% (10, 100), 脾臓 g % (100), 腎臓% (100), 精巣% (R100) ：腎臓% (10), 心臓% (100), 脾臓 g・% (100, R100)	

	剖検	：脾臓の暗赤色(100), 脾臓の腫大(100, R100) ：脾臓の暗赤色・腫大(100)
	病理組織	：脾臓のうっ血(10, 100, R100), 脾臓の髄外造血亢進(100), 脾臓の白脾髄の萎縮(100), 脾臓の黄褐色色素沈着(100, R100), 肝臓の髄外造血亢進(100), 肝臓の黄褐色色素沈着(100, R100), 骨髄の赤芽球系細胞過形成(100) ：脾臓のうっ血(1, 10, 100), 白脾髄の萎縮(100), 脾臓の髄外造血亢進(10, 100), 脾臓の黄褐色色素沈着(100, R100), 肝臓の髄外造血(100), 肝臓の黄褐色色素沈着(100, R100), 骨髄の赤芽球系細胞過形成(1, 10, 100, R100)
	標的臓器	造血系, 脾臓, 肝臓
生殖発生毒性 主な結果	親動物	影響なし
	児動物	影響なし
NOAEL		反復投与毒性： 1, 1 未満 生殖発生毒性：100
	推定根拠	反復投与毒性 10：肝臓% , 脾臓のうっ血 1：脾臓のうっ血, 骨髄の赤芽球系細胞過形成 生殖発生毒性 毒性影響なし
NOEL		反復投与毒性： 1, 1 未満 生殖発生毒性：100
	推定根拠	反復投与毒性 10：肝臓% , 脾臓のうっ血 1：脾臓のうっ血, 骨髄の赤芽球系細胞過形成 生殖発生毒性 影響なし
備考		

本データは，平成 19 年度ハザードデータ評価委員会（独立行政法人製品評価技術基盤機構）で評価された。